

- 1 日時  
平成 31 年 4 月 13 日（土） 10:00～13:00
- 2 場所  
並木コミュニティハウス
- 3 参加者 65 名  
(地域側)  
自治会等地域団体関係 25 名  
学校関係（並木第一小、並木中央小、並木第四小、富岡東中、並木中、金沢養護）  
16 名  
(支援チーム、その他行政側)  
区役所 15 名  
区社協、並木ケアプラザ、富岡東ケアプラザ 9 名

<要旨>

1 あいさつ

金沢シーサイドタウン連合自治会

金沢シーサイドタウン地区社会福祉協議会 会長 増田 一行

2 統括リーダーあいさつ 金沢土木事務所 所長 脇本 景

3 出席者紹介

・教育機関のみ紹介、その他は名簿にて確認。

4 区役所予算等の説明 金沢区福祉保健課 課長 高橋 馨

5 報告事項

- (1) 「これからの並木を創る会」より 福田事務局長が急用の為、三輪が代理
- (2) 秋期地区推進連絡会の報告 事務局長 三輪くみこ

6 意見交換

テーマ 子ども達を取り巻く環境について考える。

(1) 金沢警察署から

金沢警察生活安全課 少年防犯係長 滝田 実

・「子ども達を取り巻く環境」（～サイバー社会で子どもたちを守るためにできること～）  
をテーマにミニ講演会を聴講

(2) 意見交換要旨

【Aグループ】

- ・スマホについては、大きな問題にはなっていないが、潜在的にある。
- ・危険だから取り上げるという対応は、持ちたい欲が強くなり悪い方向に進むことがある。
- ・学校では基本的に電源を切るように伝えているが、親御さんからは電源を入れてないとGPS機能が使えないなどの意見があり、対応を検討中。
- ・基本的に危険性等を理解しない状態で持つ事は危険だが、有効活用する事も考えていきたい。その一つとして学校ではあえてスマホ等で調べ物をする授業を行っている。
- ・公園に集まっている子どもはいるが、その場でそれぞれゲームをやっている姿が目立つ。大人の意識を変える事も必要。
- ・保護者にスマホに対する危険意識を持ってもらい、大人も一緒に考えていく必要がある（生徒にネットの危険性の話をする時に保護者にも一緒に聞いて貰おうとしたが、全く集まらないので、入学式時に行い、保護者にも聞いてもらうようにしている。）

- ・虐待について表立ってはいないが、ネグレクトととれるケースが多くある。
- ・周りからみたら虐待ではないかと思うが、親にとっては、しつけの一環という場合も多くみられる。しかし、周りの人が言うわけにはなかなかいかない。  
→地域として出来る事は、虐待に近いという事に気づいて貰う環境を作ることが大事だ。
- ・虐待を早期発見できるような地域システムを考えている。
- ・挨拶するとビックリされる。(今の子どもにどのように接するのがいいか教わりたい)
- ・怒る大人が減り、子どもの話す相手がネットになってしまっているのでは？
- ・色々な経験や人生の楽しみ方を知っている大人が、それを伝える機会を地域で作る。
- ・まとめとして、あいうえお作文。  
「な」…泣く子も黙る並木の大人達は  
「み」…みんな子どもの応援団  
「き」…君たちの為に大人も学ぶ。将来を思って一言、言わせて  
「っ」…つながる先はネットより地域  
「こ」…ここから輝け、なみきっこ

#### 【Bグループ】

- ・携帯電話(スマホ)の利用について、小学校では学校から帰宅した後が問題になる。
- ・スマホでのトラブルは年に2～3件ある。内容は仲間はずれや悪口の書き込み。保護者からの連絡で把握することになり、教員が見つめるのは困難な状況がある。スマホの保有率は把握できていない。
- ・各家庭で使い方のルールや考え方がばらばら。友達が持っているとなぜ自分は持てないのかということになる。親もスマホがあることが前提で、自分も同じアプリを入れてみるなどの工夫をしている方もある。最初の約束事をしっかりすることが大切。
- ・中学校では、ほとんどの学生が所持している。学校への持ち込みは禁止だが、保護者によっては絶対に持たせませうという親もいる。
- ・学校としてもスマホの危険性について説明会を行うなど啓発はしているが、保護者の参加も少なく、考え方もまちまちで啓発が広がっていかない状況がある。
- ・子どもたちは親のスマホの使い方も見ている。大人たちが使っているのに、なぜ自分たちは禁止されるのかとの思いもあるので、大人が自分たちの使い方も考えるべき。
- ・LINEなどで実際に炎上する場合もある。
- ・民生委員の視点では並木の子どもたちは子どもらしく素直な子が多いと感じている。
- ・ある自治会ではまとめ役がいなかったため子ども会が消滅した。また、ラジオ体操も廃止になっている。ただ、自治会によっては子どもと大人と一緒にクリスマス会やたまり場を作って、節句の祝いなどのイベントを開催しているところもある。
- ・大人と子どもの顔を合わせる機会が多くなれば、挨拶も自然にできるし、そうした土壌を作っていくことができる。
- ・民児協ではつつじ祭りで駄菓子屋をやっていることで子どもとのつながりができている。また、「フリースペース窓」という学校に行けない子の居場所を月2回並木地域ケアプラザで実施している。以前フリースペースに来ていた子が大人になり、「あの時があったから今の自分がある」と言ってくれた人もいる。
- ・小学校では地域の方がボランティアとしてサポートに入っていたり、学校運営協議会や地域連携協働本部といった仕組みを通じて地域の方との連携に力を入れている。教員は業務量がとても多く、地域の方の力をお借りしたい。子ども達には人と対面する生の体験がとても大切。地域の方には挨拶やちょっとした声かけを頂くだけでも、子どもの大

きな力になるので、ご協力をお願いしたい。

- ・ケアプラザにも気軽に寄ってくれたり、トイレを借りたりする子どもがいる。小さい時から、ケアプラザの事業に親子で来てくれていると良い関係が築ける。一方、行政からは虐待やひきこもりの事例も聞いているので、ケアプラザとしてどのような支援をしていけば良いかを考えている。夏休みの学習支援や子ども食堂など、課題のある子どもたちにうまくつながれるような事業を地域の方と一緒に考えていきたい。

### 【Cグループ】

- ・学校では、2年ほど前から年1~2回程度、保護者や高学年向けに警察署よりスマホのトラブルの話をしてもらっている。事前防止や保護者理解のためにやっているが保護者は平日の参加が難しく、集って貰える機会を模索している。
- ・ゲーム機やパソコンで架空の人と知り合ったり、LINE 仲間でトラブルが起きたりする事は、学校や保護者も見つけづらい現状がある。
- ・保護者の相談の8~9割はスマホ関係のトラブル。子どもが被害者や加害者になるケースもある。子どもは判断する前にいろいろとやってしまい、新卒の若手の先生でもついていけないこともある。
- ・中学生の8~9割はスマホをもっている。親は無条件で子どもにスマホを与えているわけではない。緊急時の連絡用や友達と連絡をとるツールとして与えている。しかし、どうしてもトラブルは起きてしまう。親が連絡をくれたことで、子ども達と話し合うことができた例もある。
- ・例えば危険だからと言って包丁を使わせないということではない。スマホを安全に使う方法も伝えたくて、危険さも伝える必要がある。子どもたちはノリでやってしまうこともある。子どもを守るツールにもなりうるということを含めて伝えていく必要がある。
- ・学校としてはその時代に合わせて地域の声に耳を傾けることが必要だと思っている。その時々で違う問題が出てくるため、関係機関に支えてもらいながら対応していきたい。
- ・スマホの普及によって世界へ発信することができ、可能性が広がった。ただその反面、危険性も広がっているため、注意していく必要がある。
- ・小学生でも女の子の6割はスマホをもっている。親が働いている場合、GPS 機能がついていないスマホを持たせ、どこにいるか把握できるようにしていきたい。
- ・子どもの社会の中ではスマホを使ってコミュニケーションをとっている。LINE ではちょっとした補足事項をやりとりしている。
- ・スマホだからといって怖がる必要はない。IDは親が持っているため管理もでき、自分はR指定などをしてセキュリティをかけた上で子どもへ渡している。スマホを持っているからといって常識的にやっていいこととやってはいけないことは変わらない。「スマホ＝悪」であるというわけではない。
- ・みんなと違う意見をいうことで、いじめのターゲットにされてしまうため、自分の意見を押し殺してしまう人もいる。
- ・スマホをどう規制するかではなく、どのようにコミュニケーション能力を育てるかを考える必要がある。人と人のコミュニケーションは大事な基本だ。
- ・保育園でもユーチューブを見ている子がおり、大人が知らない情報を持っていることもあり、一抹の不安がある。
- ・子どもにスマホを与えた際に、嬉しかったようで夜中までLINE をやっておりネットの回線がいっぱいになってしまった。LINE は人との関係上大事な部分もあり、親として使い方を考えていかなければと思っている。

- ・子どもは家、学校、近所でそれぞれいろいろな顔を持っている。最近、交友関係が見えないこともある。場合によっては動物の働のようなものを働かせ、何かおかしいと感じたらすぐに対応できるようにしておかなければいけない。スマホを持たせる上で親が意識を高めておく必要もある。どのタイミングで与えるか親としても考える必要がある。
- ・大人のスマホの使い方が問題である。歩きスマホはやらない等、マナーを守って行動すべきである。

今回のテーマは、あまりに広くて深い問題だったので、なかなか本音を聞くところまで行けなかった。進行が難しいということから、スマホ問題についての講演をして頂いたところ、話がスマホ問題に偏ってしまったが、具体的な課題が3班とも良く出てきている。スマホを使う場合、本人自身がコミュニケーションを十分に取るということが重要であるということが浮き彫りになっている。子どもだけではなく大人も、機器について理解をし、お互いの意思の疎通を踏まえた上で、便利な機器を使いこなす姿勢が必要なようだ。

直接話をすべきことはちゃんと話す、面と向かって言えないことはスマホで言うてはならないなど機器を使用する上での約束をしたというアメリカの親子の話は、「スマホ18の約束」としてネットで検索でき、具体的で参考になった。

後日、保護者の一人に会った際に、「初めて参加したが、地域の皆さんがこんなに真剣に子ども達のことについて考えて貰っている」ことに驚いたということだった。

## 7 閉会の挨拶

金沢シーサイドタウン連合自治会

金沢シーサイドタウン地区社会福祉協議会

副会長 金沢 政行